日露戰史史料

露國「ニコライ」參謀大學專任教官バイオフ大佐編纂

日露戰爭

第一卷ノ一

參謀本部第四部

0517

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

日露戰爭

第一卷總目次

緒　言

第一章　開戰前兩交戰國ノ諸準備及九連城戰鬪前ノ狀況

一、戰爭ノ原因
二、極東ノ戰爭ニ使用スヘキ露軍ノ兵力
三、日本軍ノ兵力
四、露國ノ戰爭ニ對スル準備
五、日本ノ戰爭ニ對スル準備
六、戰地ノ戰略概觀
七、兩軍ノ作戰計畫
八、兩軍ノ動員
九、日本軍ノ戰略展開

0518

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

十、露軍ノ戰略展開
十一、結　論

第二章　九連城及得利寺ノ戰鬪

第一節　九連城ノ戰鬪
一、韓國ニ於ケル行動概要
二、鴨綠江岸九連城陣地ニ關スル概記
三、四月五日ヨリ四月三十日ニ至ル鴨綠江岸ニ於ケル事蹟
四、五月一日ニ於ケル九連城ノ戰鬪
五、結　論
第二節　得利寺ノ戰鬪
一、五月二十八日迄ノ彼我ノ兵力及狀況
二、シタケリベルグ將軍部隊ノ攻勢前進
三、六月十三日ノ戰鬪
四、六月十四日ノ戰鬪
五、六月十五日ノ戰鬪

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

六、南進部隊ノ退却
七、結論
第三章　九連城及得利寺戰鬪後遼陽會戰ニ至ル間千九百四年夏期南滿洲山地ニ於ケル戰鬪
一、作戰地域內ニ於ケル遼東山地ノ說明
二、六、七月ノ交ニ於ケル諸嶺上ノ交戰
三、分水嶺山脈上ニ於ケル戰鬪
四、七月中ニ於ケル露軍ノ行動
イ、七月十八日及十九日ニ於ケル細河沿ノ戰鬪
ロ、七月二十三日及二十四日ニ於ケル大石橋ノ戰鬪
ハ、七月三十一日ニ於ケル析木城ノ戰鬪
ニ、七月三十一日楡樹林子附近ニ於ケル第十軍團ノ戰鬪
五、露軍ノ編制及戰術
第四章　遼陽會戰
一、千九百四年八月中旬兩軍ノ狀況及其企圖

0520

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

二、遼陽陣地ノ性質及其價値

三、八月二十三日迄ノ露軍ノ配備及クロパトキンノ最後ノ計畫

四、遼陽會戰第一期（八月二十五日ヨリ二十九日ニ至ル威力偵察）

イ、八月二十四日ノ戰鬪

ロ、八月二十五日ノ戰鬪

ハ、八月二十六日ノ戰鬪

ニ、八月二十七日ノ戰鬪

ホ、八月二十八日ノ戰鬪

ヘ、八月二十九日ノ戰鬪

五、遼陽會戰第二期（八月三十日及三十一日ノ戰鬪決戰ノ準備）

イ、八月三十日ノ戰鬪

ロ、八月三十一日ノ戰鬪

六、遼陽會戰第三期（九月一日及二日ノ戰鬪決戰）

イ、九月一日ノ戰鬪

ロ、九月二日ノ戰鬪

七、遼陽會戰第四期（九月三日及四日ノ戰鬪戰場退却及追擊）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

イ、九月三日ノ戰鬪
ロ、九月四日ノ戰鬪
ハ、露軍渾河右岸ヘノ退却
八、結論
第五章　沙河會戰
一、露軍遼陽退却後ニ於ケル日本軍ノ狀況
二、クロパトキン將軍ノ計畫及千九百四年十月二日ノ命令
三、露軍ノ攻擊（十月四日ヨリ十月十日ニ至ル戰鬪）
四、日本軍ノ攻勢前進（十月十一日ヨリ十月十七日ニ至ル戰鬪）
五、結論
第六章　ビリデルリング大將西部兵團ノ沙河會戰ニ於ケル行動
一、端緒
二、十月四日ヨリ十月十日ニ至ル行動
三、十月十一日ノ戰鬪
四、十月十二日ノ戰鬪

0522

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

五、十月十三日ノ戰鬪
六、十月十四日及十五日ノ戰鬪
七、結論

第七章　シタケリベルグ中將東部兵團ノ沙河會戰ニ於ケル行動

一、一般ノ狀況
二、十月五日及七日ノ戰鬪
三、十月八日ノ戰鬪
四、十月九日ノ戰鬪
五、十月十日ノ戰鬪
六、十月十一日ノ戰鬪
七、十月十二日ノ戰鬪
八、十月十三日ノ戰鬪
九、結論

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

附錄

第一、得利寺ニ就テ

第二、再ヒ得利寺ニ就テ

第三、シタケリベルグ將軍ノ寄稿「得利寺」ニ就テ

第四、更ニ得利寺ニ就テ

第五、得利寺ノ戰鬪ニ於ケル歩兵第三十五師團第二旅團

第六、遼陽會戰記ノ一節

0524

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

日露戰爭 第一卷ノ一

露國「ニコライ」參謀大學專任教官バイオフ大佐編纂

緒言

二十一箇月ニ亘リタル日露戰爭ハ千九百五年九月五日ノポーツマウス條約ニ依リテ其終局ヲ告ケタリ

本戰役カ日露兩交戰國ノミナラス全世界ノ文明諸國ニ對シテ有スル價値、本戰役ノ行ハレタル特殊ノ諸條件、幷ニ此戰役ノ未來ニ對スル教訓及世人ノ意表ニ出テタル結果等ハ今ヤ一般人士特ニ其職ニ忠實ナル軍人ノ耳目ヲ之ニ傾注セシメ今後永ク其注意ヲ怠ラサラシムヘシ

千九百四、五年日露戰役中ノ諸事件ヲ仔細ニ研究スルハ今後各軍人ノ須ラク勉ムヘキコトナリ殊ニ此研究タルヤ吾人露國人ニハ一層緊要ナルヲ感ス何トナレハ本戰役中ノ悲ムヘキ諸戰鬪ハ吾人ニ取リテ大ナル歷史的教訓ト爲リ吾人ヲシテ其蒙リタル創痍ヲ醫シ以テ今後我親愛ナル露國ノ歷史上ニ大膽ニシテ且ツ有爲ナル事業ヲ印センカ爲メ精神的物質的醒覺ヲ與ヘ奮勵努力セシムヘキヲ以テナリ

然レトモ此研究ヲシテ利益ヲ得セシメントセハ唯其諸事件ノ事實ノミヲ知得スルヲ以テ足レリトセス

0525

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

須ラク此等ノ諸事件ヲ講究シ何故ニ此等諸事蹟ヲ生シタルヤノ理由ヲ明カニシ以テ至當ナル結論ヲ爲スヘキナリ

此結論タルヤ未來ニ對スル規定タル能ハサルモ亦以テ將來諸戰闘ノ準備ニ際シ其據點タラシムヘキモノナリ

彼ノ悲慘ナル諸戰闘後日尚ホ淺ク此等諸戰闘ノ事實ヲ記シタルモノ少ク且ツ筆者カ戰闘ヲシテ此ノ如キ結果ニ至ラシメタル人々ノ個人的利害ヲ打算シ或ハ其私情ニ驅ラレテ故意ニ曲筆シタル偏頗ナル記錄多キヲ以テ現今ハ啻ニ諸戰闘ノ進行ニ影響シタル諸種ノ原因ヲ明カニスルニ困難ナルノミナラス此等諸戰闘ノ事實ヲ正確ニ記述スルコトスラ頗ル困難ナリ故ニ目下ハ未來ノ戰爭準備ノ爲メ正シキ指南車タルヘキ最後ノ確定セル結論ヲ爲スハ早計ニ失スヘシ

然レトモ以上述ヘタル所ヲ以テ直ニ吾人露國人殊ニ露國軍人タル者ハ本戰役ノ事實ノ概略ヲ寛知スルノ要無シトスヘカラス此等悲慘ナル諸戰闘中其一分ナリトモ研究シ以テ其原因ノ某有度迄闡明スルヲ勉メサルハ誤レルノ甚タシキモノナリ蓋シ之ニ依リテ吾人カ未來ニ要スル事ヲ決定スル能ハサルモ現時吾人ノ須フク遺忘スヘキ事ヲ指摘セサルヘカラス而シテ之ヲ行ハンコト必スシモ難事ニ非ス蓋シ戰役ノ概略ヲ通觀セハ忽チ冒頭ニ於テ一面我國從來ノ誤謬、惡弊ヲ認メ他ノ一面ニ於テハ輕視スヘカラサル軍事上ノ原則ニ違反セルコトヲ認ムルヲ得レハナリ

是レ本年ニコライ參謀大學ニ於テ日露戰役ニ關スル講話ヲ行ヒタル所以ナリ

講話ハ左ニ掲クル諸項ヲ基礎トシテ行ハレタリ

一、講話ハ之ヲ要スルニ日露戰爭全經過ヲ一目明瞭ナラシメン爲メ各所陸上ノ大戰闘ヲ時日ノ順序ニ從ヒ描出スヘキ事

二、講話ハ何人ニ對シテモ其罪過ヲ摘發スルカ如キ告訴狀タルヘカラス然レトモ之ト同時ニ講話ハ單ニ事實ノミヲ列擧シタル純粹ノ記錄ニ止マラスシテ其講話スル事實ノ講評ヲハ現在ノ狀況ニ於テ爲シ得ル限リ學理的ニ之ヲ行フヘキ事

三、講話ハ左トシテ參謀大學學生ノ爲ニ演セラレタルモノナリト雖モ一般軍人カ今回ノ諸戰闘及其

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

勉メサルハ誤レルノ甚タシキモノナリ蓋シ之ニ依リテ吾人カ本來ニ要スル事ノ決定スル能ハサルモ現時吾人ノ須フク遺忘スヘキ事ノ指摘セサルハカラス而シテ之ヲ行ハンコト必スシモ難事ニ非ス蓋シ戰役ノ概略ヲ通觀セハ忽チ冒頭ニ於テ一面我國從來ノ誤謬、惡弊ヲ認メ他ノ一面ニ於テハ輕視スヘカラサル軍事上ノ原則ニ違反セルコトヲ認ムルヲ得レハナリ

是レ本年ニコライ參謀大學ニ於テ日露戰役ニ關スル講話ヲ行ヒタル所以ナリ

講話ハ左ニ掲クル諸項ヲ基礎トシテ行ハレタリ

一、講話ハ之ヲ要スルニ日露戰爭全經過ヲ一目明瞭ナラシメン爲メ各所陸上ノ大戰鬪ヲ時日ノ順序ニ從ヒ描出スヘキ事

二、講話ハ何人ニ對シテモ其罪過ヲ摘發スルカ如キ告訴狀タルヘカラス然レトモ之ト同時ニ講話ハ單ニ事實ノミヲ列擧シタル純粹ノ記錄ニ止マラスシテ其講話スル事實ノ講評ヲハ現在ノ狀況ニ於テ爲シ得ル限リ學理的ニ之ヲ行フヘキ事

三、講話ハ主トシテ參謀大學學生ノ爲ニ演セラレタルモノナリト雖モ一般軍人カ今回ノ諸戰鬪及其適當ナル學術上ノ講評ヲ知ルヲ嗜味アリトシ且ツ本校ハ許ス限リ一切ノ手段ヲ講シテ軍事ニ關スル有益ナル智識ヲ我陸軍ニ普及セシムルニ努力スルハ道德上ノ義務ナリトスルヲ以テ講堂ノ許ス限リ學生以外ノ將校ノ入場ヲ許可セリ然ルニ遺憾ナカラ本校ノ最大講堂モ比較的狹隘ナルヲ以テ招待者ノ數ヲ減シ之ヲ參謀將校及獨立部隊長以上ニ限ルノ已ヲ得サルニ至レリ

一面上記ノ理由ニ依リ又一面ニハ本校ニ於テ行ヒタル日露戰爭講話カ唯一聖彼得堡衛戍諸隊ニノミ知ラルヽヲ避ケンカ爲メ之ヲ「ルスキー、インワリッド」新聞或ハ「ワエンヌイ、ズボルニック」雜誌ニ掲載セリ本書ヲ發行シタルモ亦此考慮ニ據レルナリ

四、講話ハ戰爭參加者及單ニ戰鬪ニ關シ報告ヲ呈スルノ職ニ在ル參加者ニ依リテ行フヲ趣旨トセリ

而シテ此趣旨ハ終始一貫シテ持續セラレ此以外ノ者ハ頗ル僅少ナリ

0527

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

初メ本校ノ此講話ヲ行ハンコトヲ企圖スルヤ本校教官其他ノ參謀將校及シュワルツ工兵大尉カ喜ンテ之ニ應シタルノ事實ヲ記スルハ本大學ノ特ニ滿足トスル所ナリ

本校ノ依囑ニ應シテ講話ハ次ノ諸氏ニ依リテ行ハレタリ卽チ參謀大佐エヌ、ア、ダニロフ、同公爵エヌ、ベ、ワドボリスキー、同ヴエ、エフ、ノウィツキー、同エム、エフ、マトコフスキー、同エス、カ、ドブロウォリスキー、同ベ、デ、コマロフ、中佐ネヅナモフ、大尉ステパノフ、工兵大尉シュワルツノ諸氏ナリ本校ハ此等諸氏ノ好意ニ對シ深ク謝意ヲ表ス

講話ハ頗ル浩瀚ニ亘レルヲ以テ本講話集ハ二卷ニ分チ出版ス而シテ第一卷ハ沙河戰ニ至ル迄ノ諸戰鬪ニ關スル講話ヲ網羅シ第二卷ニハ其殘餘ヲ掲載セリ

第一卷ニハ參謀大學ニ於テ行ハレタル講話ノ外ニ尙ホ記事ノ完全ヲ期センカ爲メ參謀大尉マルコフ稿「シタケリベルグ中將東部兵團ノ沙河ニ於ケル行動」ヲモ之ニ加フルコトヽセリ本稿ハ時日ノ餘裕無キカ爲メ講話トナラサリシモノニシテ本校ハマルコフ大尉カ本書ヲシテ一層完全有益ナルモノタラシメタルニ對シ誠實ナル謝意ヲ表ス

本書中ニハ增補及說明ノ目的ヲ以テ本講話ニ依リ喚起セラレタル新聞記事ヲモ特別附錄トシテ添加シタリ此等ノ記事ハ他ノ觀察點ヨリ諸戰鬪ヲ見タルモノニシテ眞相ヲ明カニスルノ一助ト爲スニ足ラン

本校ハ今主トシテ戰列將校ノ爲ニ本書ヲ發行ス本書ヲ完成セシメタル諸將校ノ公平無私ナル勞力ハ啻

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ニ讀者ヲシテ諸戰況ヲ知ラシメ且ソ其適評ヲ聞カシムル裨益ヲ與フルノミナラス軍事學ノ原則ノ忘ルヘカラサルト此等原則ニ違反スルノ恐ルヘキコト且ツ須ラク諸原則ヲ尊重シ軍事學ノ諸般ニ亘リテ出來得ル限リ勉メテ之ヲ研究スルノ必要ナルヲ知ラシムルニ於テ至大ノ利益ヲ及ホスモノナルコトヲ信ス

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一章　開戰前兩交戰國ノ諸準備及九連城戰鬪前ノ狀況

（ニコライ參謀大學專任教官エヌ、ア、ダニロフ講話）

一、戰爭ノ原因

抑〻本戰役ハ一方ニ於テ日本ノ亞細亞大陸ニ根據ヲ植立セントノ希望、他方ニ於テ露西亞ノ亞細亞東海岸ニ不凍港ヲ獲得セントノ希望ノ衝突ニ起因スルモノナリ

日本ハ此主要ナル目的ノ爲メ千八百九十四、五年ニ於テ清國ト戰爭ヲ交エ其結果トシテ希望ノ大部ヲ達成シ千八百九十五年四月十七日ニ締結セシ下ノ關條約ヲ以テ韓國ノ獨立ヲ確認シ以テ諸外國ヲシテ再ヒ彼ニ干涉スル餘地無カラシメ又遼東半島ヲ獲得セリ即チ日本ハ亞細亞大陸ニ於ケル土地ノ一部ヲ事實的ニ占領シタルモノニシテ而カモ其土地タル大ニ戰略的關係（北京ニ至ル通路ノ咽喉部）ヲ有スルモノトス又露西亞ハ孜々汲々トシテ自己ノ目的タル極東ニ不凍港ヲ得ンコトニ勉メ或ハ西伯利鐵道ノ敷設工事ヲ開始シ或ハ獨佛兩國ノ協力ヲ得テ日本ノ遼東占領ニ抗議シ遂ニ日本ヲシテ清國トノ戰爭ニ勝チテ獲得セル最モ重要ナル利益ヲ拋棄スルノ已ムヲ得サルニ至ラシメ其後露西亞ハ旅順口ヲ占領シ千八百九十八年清國ト遼東南部ニ關シ二十五箇年間ノ租借ヲ締約シ其重要ナル目的ヲ達セリ此結果西伯利鐵道ノ直通（黑龍江左岸ニ沿ハスシテ滿洲ヲ横斷ス）ト爲リ又哈爾賓ヨリ一直線ニ旅順口ニ至ル支線ヲ導クニ至レリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

千九百年清國ニ於テ拳匪ノ擾亂起リタル結果露國ハ滿洲經營ニ關スル有名ナル千九百一年ノ露清條約ヲ締結セリ然レトモ其條款ニ對スル不滿足ニ出リ千九百二年四月二十一日更ニ新露清條約ヲ締結シ露國ハ左ノ三期間ニ滿洲ヨリ撤兵スルコト、爲レリ即チ千九百二年十月二十一日迄ニ奉天省ヨリ、千九百三年四月二十一日迄ニ吉林省ヨリ、千九百三年十月二十一日迄ニ黑龍江省ヨリ撤退スルヲ要セリ

此間日本ハ下ノ關條約ニ對シテ加ヘタル露國ノ制壓ヲ以テ其素志ニ對シ忘却スヘカラサル凌辱ナリトシ國民ハ深ク報復心ヲ生シ非常ナル憤懣ヲ惹起セリ既ニ是時ヨリシテ日本ハ露國トノ戰備ヲ開始セシカ此準備タルヤ國家ノ全般ニ亘リ國民ヲ擧テ露國ヨリ受ケタル凌辱ヲ雪キ且ツ自己ノ軍隊ノ鮮血ヲ以テ贖ヒナカラ露國ノ爲ニ横奪セラレタルモノヲ奪還セサルヘカラストノ精神ヲ鼓舞シ諸學校ノ兒童亦其薫陶ヲ受ケ今ヤ此精神ハ沛然トシテ國民及社會ノ全層ニ瀰蔓シタリ之ト共ニ日本政府ハ百般ノ方法ヲ盡シテ時ノ如何ヲ問ハス若シ其國民ノ希望ヲ阻礙スル敵アラハ直ニ干戈ヲ以テ之ニ應スルノ準備ニ著手セリ實ニ陸海軍兩省ハ軍隊艦船ノ擴張計畫ニ著手シ始メ千八百九十六年三月二十九日ヲ以テ之ニ關スル勅令ヲ發布セリ此勅令ニ依レハ千九百三年ニハ日本ノ武力ハ二倍セラルヘキモノタリキ

千八百九十八年ニ於ケル我遼東ノ占領、千九百年ニ於ケル露軍ノ滿洲進入及千九百一年ニ於ケル我滿洲經營等ハ悉ク露國ニ對スル日本ノ興奮力ヲ高起シ又必ス露國ト戰爭セサルヘカラストノ國民ノ自信ヲ固メタリ一方ヨリスレハ日本政府ハ之ニ依リテ千八百九十六年ノ陸海軍ノ改革ヲ急キ又將來ニ於ケル露國ト戰爭ノ發生ニ際シ諸外國ノ干涉無キヲ保スル爲メ千九百二年二月十二日英國ト同盟シ且ツ米

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

國トハ友誼的協商ヲ爲スニ努力セリ此等盟約ノ實行ハ單ニ日露戰爭ノ際他外國ノ干渉ヲ拒止シタルノミナラス尙ホ之ニ依リ諸般ノ糧食戰鬪材料其他諸種ノ物資ノ供給ヲ受ケタリ

此等ノ事件ハ露國政府ヲシテ益〻大ニ注意ヲ傾ケサルヘカラサルニ至ラシメ日本ニ於テハ果シテ何事ノ行ハレツヽアルカ又極東ニ於ケル我勢力及政策ハ如何ナルカ等事實ノ眞相ヲ探求センカ爲メ陸軍大臣侍從將官クロパトキンハ滿洲幷ニ日本ヘ派遣セラレタリ

實ニクロパトキン將軍派遣ノ結果從來露國ノ執リタル對外政策ノ方針ヲ變更スルニアラスンハ到底日本トノ戰爭ハ避ケ難キコト愈〻明白ト爲レルヲ以テ未來ノ戰爭ニ對シ極東ニ於ケル我情態ヲ改善スル爲メ百般ノ方法ヲ採リタリ是ニ於テ極東太守ヲ置キ以テ中央政府ヨリ離隔セル極東ノ政權ヲ執行セシムル爲メ全權ヲ委任シ獨斷專行ノ權利ヲ附與セリ又是ヨリ先キ極東ニ於ケル陸海軍力ヲ增大シ同時ニ諸要塞ヲ强固ニシ又百般ノ方法ヲ盡シテ太守管轄地ニ任ル軍隊ノ豫備糧秣ヲ充實セシメタリ此等露國政府ノ計畫ハ愈〻露國ニ對スル日本國民ノ憤慨ヲ高メ其愛國的精神ハ益〻激烈ト爲リ一刻モ早ク露國ニ對シ宣戰布告ヲ爲サンコトヲ政府ニ要求セリ此事ニ關シテハ日本政府ハ國民ニ比スレハ大ニ温和ナリシト雖モ他方面ヨリ觀察スレハ日本ニ於テハ既ニ久シキ以前ヨリ採リタル決心ニ基キ開戰ニ至ラシムル爲メ國交斷絶ヲ爲スヘキ好機ノ刻一刻切迫シ來ルヲ認メツヽ千九百三年七月二十八日露國ニ對シ外交談判ヲ開始セリ

實際日本カ最初露國ニ對シテ提出セル極東事件ニ關スル要求ハ温和ナルモノナリシト雖モ露國ニ於テ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

讓歩ノ形勢アルヤ益〻自己ノ要求ヲ高メ結局露國ハ讓歩ニ讓歩ヲ重ネタル末到底讓歩ノ餘地無キニ至レリ蓋シ是レ實ニ一强國タル露國ノ名譽ト價値ヲ害フモノナレハナリ竟ニ日本ハ千九百四年二月七日ヲ以テ露京駐劄栗野公使ヲ召還シ同日東郷中將ノ艦隊ハ我旅順艦隊ヲ攻擊スル爲メ佐世保ヲ拔錨シ茲ニ戰爭ノ開始ヲ見ルニ至レリ

二、極東ノ戰爭ニ使用スヘキ露軍ノ兵力

千八百九十八年ニ至ル迄ニ平時極東及西伯利ニ於ケル我軍隊ハ狙擊歩兵、線列歩兵、豫備歩兵及要塞歩兵合計七十一大隊、騎兵二中隊、哥薩克騎兵七十八中隊、野砲百十二門、騎砲十八門、工兵一大隊ト四分ノ一、要塞砲兵五中隊ナリ開戰ト共ニ此等ノ軍隊ヲ動員シテ極東及西伯利ニ於ケル駐屯軍隊ハ歩兵百四十一大隊、騎兵六中隊、哥薩克騎兵百十一中隊、野砲二百四十八門、騎砲二十四門、工兵二大隊半、輜重兵一大隊、要塞砲兵十四中隊ト爲リ其歩兵ト騎兵及砲兵トノ比例ハ騎兵ハ歩兵ノ八分ノ一、砲兵ハ歩兵一大隊ニ付一、八門ナリ上記軍隊ノ内實際極東ニ在ルモノハ歩兵百九大隊、騎兵六中隊、哥薩克騎兵六十九中隊(騎兵ハ歩兵ノ九分ノ一)、野砲百八十四門(歩兵一大隊ニ付一、八門)騎砲二十四門、工兵二大隊ト四分ノ一輜重兵一大隊、要塞砲兵十四中隊トス

千八百九十八年迄ハ極東ニ於ケル軍隊ノ最大ナル戰術的編合ハ歩兵砲兵共ニ旅團ニシテ歩兵ニハ狙擊兵及線列兵アリ又沿黑龍江州軍管區司令部ハ一般ノ規定ニ反シ軍司令部ト爲ス如ク準備シアラサリキ千八百九十八年旅順口ノ占領後極東ニ一部ノ軍團編制ヲ實施シテ第一及第二西伯利軍團ヲ編成シ沿黑

0533

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

龍江州軍管區司令部ハ全然軍司令部組織ト爲ス如ク改正セラレ其他太守府幷ニ關東州司令部ヲモ編成セリ然レトモ極東ニ在ル軍隊ヲ悉ク軍團編制ト爲シタルニアラスシテ其大部分ハ軍管司令部及州司令部ニ直屬セリ

極東ニ在ル歩兵及騎兵ハ歐露ニ於ケルモノト同一ニ武裝セラレ其砲兵ノ一部ハ新式速射砲ヲ有セリ是レ極東ノ砲兵ハ第一著ニ新式砲ニ改裝セラレタルカ爲メトス然レトモ其全部ハ新式砲ヲ有セス卽チ西伯利砲兵四大隊(砲六十四門)ハ未タ之ヲ受領セサリキ

此ノ如クニシテ戰爭前ニ於ケル極東ノ概況左ノ如シ

一、軍隊統帥部ノ整然タル建設ナシ

二、騎兵ハ甚タ寡少ナリ而シテ騎兵ハ左ノ理由ニ基キ成ルヘク多ク有スルノ必要アリ

イ、敵ノ騎兵甚タ少ナシ

ロ、戰場廣大ナリ

ハ、諸方面ニ於ケル我軍ノ交通甚タ安全ナラス

ニ、我軍ノ情態ハ防勢ヲ取ラサルヘカラス然ルニ諸般ノ情況ニ精通スルコト困難ナルヲ以テ萬事ニ對シテ一層綿密ナル偵察ヲ要ス

三、砲兵モ亦不充分ナリ

四、工兵モ甚タ寡少ナリ加之輕氣球隊及回光通信隊ノ如キ特種部隊ハ全然之ヲ缺ケリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

終リニ我極東ノ軍隊ニハ概子電話隊ヲ缺キタルコトヲ注意スルヲ要ス

沿黑龍江州軍管區及關東州ノ軍隊（歩兵百九大隊、騎兵及哥薩克騎兵七十五中隊幷ニ砲二百八門）ノ配備モ亦甚タ不滿足ノ狀態ヲ有セリ何トナレハ此等ノ軍隊ハ東西二千二百露里、南北千四百露里ノ地域内ニ廣タ配置セラレ在リシヲ以テナリ此ノ如キ配備ハ動員、集中及教育（檢閲ノ困難及大部隊ノ演習ヲ爲シ難キ等）ニ對シテ大ナル障碍ヲ來スコト避ケ得ヘカラサルモノトス

我陸軍ノ武裝ハ從來凡テノ戰爭ニ於テ常ニ敵軍ニ劣リシハ歴史ノ證明スル所ニシテ又露軍ノ戰術ハ敵ノ武裝ニ適應セサルモノナリキ

今回ノ戰役ニ於テハ我武裝ハ敢テ日本ニ一歩ヲ讓ラサルノミナラス寧ロ彼ヨリ優勝ノ位置ニ在リシニ拘ハラス我戰術ニ至テハ依然敵ノ武裝ニ對シ其當ヲ失シタルモノ多シ今千九百四年ノ戰爭ニ於ケル我軍戰術上ノ重要ナル缺點ヲ指摘スレハ左ノ如シ●

一、駐軍又ハ行軍中敵ノ附近ニ於テ警戒ノ要領ヲ知ラサルコト卽チ或ハ甚タ微弱ナル兵力ヲ用ヒ或ハ過度ニ强大ナル軍隊ヲ使用シ又警戒法ノ不適當ナル爲メ甚シク軍隊ヲ疲勞セシメタリ此等ノ過失ノ一部ハ其罪ヲ我野外要務令ニ歸セサルヘカラス

該要務令ニハ敵ノ附近ニ於テハ戰鬪隊形ヲ以テ警戒スヘキ規定アリ之カ爲メ實際ニ於テ休憩ノ爲メ故ラニ戰鬪隊形ヲ採リシコト屢〻之アリ

二、前衛ノ任務ヲ了解セサルコト卽チ前衛ナルモノハ單ニ自己ノ配置セラレタル地點ヲ掩護スルモ

0535

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ソト思考シ又敵砲兵ノ射擊ヲ開始スルヤ之ヲ以テ其任務ヲ終リタルモノト爲シ直ニ本隊ニ復歸セルヲ以テ本隊ノ前面ニハ一ノ掩護無ク之カ爲メ其展開ヲ非常ニ困難ナラシメタリ

三、搜索ノ要領ヲ充分ニ了解セサリシコト卽チ之カ爲メ騎兵ヲ分散セシメ又騎兵ノ性質ニ不適當ナル任務ヲ與ヘタリ例ヘハ步兵ヲ以テ警戒スルヲ要スル場合ニ在テモ尙ホ之ヲ騎兵ニ委任セルカ如キ是レナリ

四、以上ノ結果トシテ充分情況ヲ偵知セス形式的卽チ想像ヲ以テ軍隊ヲシテ戰鬪展開ヲ爲サシメ之カ爲メ著シク豫備隊ヲ減少シ又之ヲ不利益ニ使用セリ

五、現時ノ銃砲火ニ對シ戰術上地形ノ利用其當ヲ得サリシ結果軍隊ハ間隔ヲ設ケス連續シテ配置セラレタリ此間隔ハ敵ヲ包圍射擊スル爲メ必要ナルモノトス遼陽戰ノ際陣地ノ一部ニ三露里ノ間隔ヲ置ケリ日本軍ハ此間隔ヲ破壞孔的ニ利用セントセシモ其企圖ハ我十字火ニヨリ挫折セラレ多大ノ損害ヲ蒙リ再ヒ之ヲ遂行スル能ハサリキ故ニ現時ハ連續シテ陣地ヲ占領スルノ必要無ク單ニ支撐點ト爲スヘキ獨立セル地點ヲ占據セハ可ナリ

六、地形ニ適應スルコト拙劣ナリ卽チ操典ノ要求ニ反シテ徒ラニ密集シ又砲兵ハ暴露シテ其陣地ヲ占領セリ而カモ是レ重ニ歐露ヨリ到著セル砲兵隊ニ見ル所ニシテ然モ之レ射擊法ニ精通スト稱セラル、砲兵總監直接之ヲ指導セルモノナリシナリ

七、敵ノ迂回ヲ打破スルノ智能無カリシコト卽チ此目的ニ對シ梯隊配備ヲ採ルコト無ク常ニ迂回セ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

テ屈ベキ翼ヲ屈折シテ配置セリ迂回ニ對スル此方法ハ軍隊ニ確信セラレ開戰後凡ソ一年半ノ後チ四平街ノ陣地ニ於テモ尚ホ此目的ノ爲メ其翼ヲ屈折シ決シテ梯隊配備ヲ採ラサリキ

八、獨斷專行ノ能力ニ乏シキコト長官ノ年齡高キニ隨ヒ益〻獨立ノ處置ヲ爲スヲ恐レテ專行ノ能力愈〻微弱ナリキ

九、長官ノ細事ニ干涉スルノ癖アルコト卽チ高級指揮官ハ聯隊又ハ師團アルコトヲ忘レテ自ラ中隊、大隊ノ行動ニ干涉セリ是レ主トシテ平時檢閲ニ於ケル習慣ニ原因スルモノニシテ卽チ師團長ハ常ニ下士卒ノ智能及動作ノミヲ檢閲シ聯隊長ノ職責勤勉等ハ概シテ之ヲ問ハサリシニ依ル

我軍ノ戰術上ノ缺點ヨリ日本トノ戰爭ニ於テ左ノ事項ヲ發見セリ

一、戰術研究ノ不熱心ナルコト卽チ參謀將校スラ陸軍大學校卒業後ハ概ネ其研究ヲ怠ニセリ隊附將校ニ至テハ言ヲ俟タス

二、各隊長ハ部下軍隊ニ對シ己レノ知ル所ノミヲ要求シ業務ノ利益上必要ナル事項ヲ度外視ス蓋シ此等ノ事項ヲ要求スル爲ニハ自身ニ勉勵シ大ニ斯道ノ大家タラサル可ラサルヲ以テナリ

要スルニ日露戰爭ニ於テ我軍ニ於ケル戰術上ノ不成効ハ實ニ前記ノ如ク其素養ニ乏シキコト之カ大原因タリト謂ハサル可ラス

極東太守管轄地及西伯利屯在軍隊ノ常用ニ供セサル豫備糧秣ノ準備ハ左ノ如シ

浩黑龍江州軍管區ニ　三箇月分

0537

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

關東州ニ　十二箇月分

西伯利軍管區ニ　八箇月分

右ノ期限ハ新タニ軍隊ノ到著スルニ從ヒ漸ク減縮セラレ之ニ依リ陸軍經理部ハ左ノ如キ大困難ヲ生セリ即チ多數ノ軍隊到著シ西伯利鐵道ハ兵員馬匹ヲ以テ充塞セラレ之カ給養ニ多大ノ糧秣ヲ要シ勢ヒ土地ノ物資ニ依ルノ一策ノミト爲リシヲ以テ經理部ハ詳ニ此等ノ事情ヲ考究シ巧ニ滿洲ノ豐富ナル物資ヲ利用シ鑛詰類ヲ除キ他ハ悉タ之ヲ應用セリ實ニ經理部カ此効果ヲ得タルハ經理學校ヲ卒業セル將校等ニ負フ所頗ル多シトス

千八百九十四年ニ於テハ我東洋艦隊ハ巡洋艦一、砲艦四、水雷艇十二隻ヨリ成リタリシカ日清戰爭ハ我東洋艦隊ノ增加ヲ必要ナラシメ千八百九十五年ニハ戰鬪艦一、巡洋艦四、砲艦六及水雷艇十五隻ヲ有セリ其後千九百年ニ於ケル拳匪ノ擾亂ニ因リ我東洋艦隊擴張ノ議起リ同年既ニ戰鬪艦六、巡洋艦十二、砲艦九、水雷砲艦二、水雷驅逐艦十及水雷艇三十隻ヲ有シタリ

千九百三年ニ始マリタル外交問題ハ吾人ヲシテ愈〻我東洋艦隊擴張ノ必要ヲ自覺セシメ千九百四年ニハ戰鬪艦七、裝甲巡洋艦四、保護巡洋艦六、非裝甲巡洋艦四、砲艦七、水雷砲艦二、水雷驅逐艦二十五、水雷艇七、小形水雷艇十隻ト爲リ軍艦ハ總計七十二隻其總噸數十九萬二千二百七十六噸ヲ算セリ

千九百四年一月此東洋艦隊ハ左ノ如ク配置セラレタリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

艦種ノ所在地	旅順港	大連灣	營口	上海	仁川	浦鹽斯德
戰鬪艦	七					三
裝甲巡洋艦	一					一
保護巡洋艦	四				一	
非裝甲巡洋艦	二	二				
砲艦	四		二	一	一	
水雷砲艦	二					
水雷驅逐艦	二二					
水雷艇	七					一〇
計	四九	二	一	一	二	一四
備考	旅順艦隊ハスタルク中將之ヲ指揮セリ					

布ノ外極東航行ノ途上紅海ニ在リシ少將ウキレニウスノ艦隊ハ戰鬪艦一、裝甲巡洋艦一、保護巡洋艦一、水雷驅逐艦七、及水雷艇四隻ナリ

此述ノ如キ艦隊ノ配布ヲ見ルトキハ我國カ近キ將來ニ於テ極東ニ戰爭ノ起ルヘキコトヲ豫期セサリシコトヲ明瞭ナリ

0539

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

右ノ外吾人ハ極東ニ假裝巡洋艦ニ改裝シ得ヘキ十四隻ノ大汽船ヲ有セリ

極東ニ於ケル我浦鹽斯德及旅順ノ兩港ハ充分ニ我艦隊ノ碇泊ヲ保證スル能ハス浦鹽斯德ニハ二港口ヲ有スル便利ナル內部碇泊場アリ又造兵廠、戰鬪艦ヲ容ルヘキ乾船渠及二箇ノ浮船渠アリト雖モ冬期三、四箇月間ハ氷結ス又旅順港ハ內港ハ狹隘ニシテ且ツ水淺ク外港ニ通スル港口亦狹隘ニシテ通過ニ便ナラス又外港ハ東南風ニ對シ遮蔽無シ此地ニハ造兵廠及戰鬪艦ノ爲メ使用シ得サル小船渠アリ

三、日本軍ノ兵力

平時ニ於ケル日本ノ軍隊ハ近衞師團一箇、線列師團十二箇、臺灣ニ於ケル集成師團一箇、獨立騎兵旅團二箇、獨立砲兵旅團二箇ニシテ其人員十四萬六千人ナリ之ヲ細別スレハ左ノ如シ

歩兵	九七、三四四人	百分ノ六六、〇
騎兵	七、一四六人	百分ノ四、八
砲兵	二四、五九二人	百分ノ一八、四
工兵	八、八四〇人	百分ノ五、四
輜重兵	八、〇〇〇人	百分ノ五、四

戰時ニ於ケル軍隊ハ野戰師團十三箇及後備旅團十三箇ニシテ其人員四十八萬人ナリ然ルニ千九百四年一月ニ於ケル教育ヲ受ケタル豫後備役兵ハ五十三萬人ナルヲ以テ十九萬ノ新兵、百萬ノ補充兵及百五十萬ノ國民兵ヲ除クモ戰時要員ニ對シ十九萬六千人ノ剩餘ヲ有スルモノトス

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

平時計算ニ依レハ將校ハ六百人ノ過員アリタリ然レトモ實際ニ於テハ不足ヲ生シ之ヲ充實センカ爲メ臨時ノ方法トシテ士官學校ノ卒業期ヲ短縮シ且ツ下士ヲ拔躍シテ正規外ノ將校ヲ任命セリ

日本ハ地勢ノ關係上其軍隊ノ配置頗ル有利ニシテ且ツ其衞戍地ハ鐵道沿線又ハ海岸ニ位置セリ

日本ノ武器ハ野戰隊ニ於テハ有坂銃アリテ概ネ我小銃ト優劣ナシ後備隊ノモノハ舊式村田連發銃ニシテ歩兵ハ各人百二十發ノ彈丸ヲ有ス砲兵ハ三「デユイム」口徑ノ有坂砲ヲ有ス此砲ハ裝塡迅速ナリト雖モ速射砲ト稱スルヲ得ス是レ完全藥筒ナラサルヲ以テナリ同口徑ノ山砲ハ著シク輕量ニシテ且ツ駄載シテ運搬スル爲メ分解シ得ルモノトス砲彈ニハ榴霰彈及榴彈アリ榴彈ハ遙ニ我軍ノモノヨリ優レリ我軍ニハ堅牢ナル工事ヲ破壞スル爲メ此種ノ爆裂彈ヲ有セサリキ

日本軍隊ノ訓練ハ西部歐羅巴式ニシテ就中獨逸式ヲ採用シ其典令等ノ如キハ全ク獨逸式ナリ

日本軍隊ノ特徴ハ規律嚴格ニシテ放肆ナラサルコト、廉潔ナルコト、死ヲ輕ンスルコト、愛國心强キコト及下士卒ノ概シテ讀書シ得ルコトニシテ總テノ戰死者及俘虜ノ背囊中ニ地圖及日記帳ヲ有スルヲ以テ之ヲ證スルヲ得ヘシ其他日本軍ハ各指揮官ノ年齒少壯ナルヲ以テ優レリ是レ其昇進ハ各〻其技能ニ依リ拔擢セラル、ヲ以テ(日本軍將官ノ大部ハ其年齡五十歲以下ナリ)各指揮官ハ熱心果斷ニシテ業務ヲ處理スルコト敏活ナリ

日本ノ海軍ハ千九百四年一月ニハ戰鬪艦八、裝甲巡洋艦八、(此中二隻ハアルゼンチン國ヨリ購求セシモノトス)、非裝甲巡洋艦十六、砲艦十二、水雷砲艦四、水雷驅逐艦十九、水雷艇十一及小形水雷艇五十

0541

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

二隻ヨリ成リ軍艦ハ總計百三十隻ニシテ其總噸數二十六萬九百三十一噸トス而シテ構造法ニ於テ日本ノ艦隊ハ同一艦型ナルト速力ノ快速ナル點ニ於テ優勝ナリ而シテ三萬三千六百七十四人ノ將校下士卒ヲ有スル艦隊ハ皆是レ海國ニ於ケル天然的海士卽チ沿海地方ノ住民ノ集團ヨリ成立スルモノナリ

日本ハ既ニ戰爭前充分ニ完備セル數多ノ海軍根據地ヲ有ス横須賀、吳、佐世保及舞鶴ノ如キ第一位ノ軍港ヲ備ヘ對馬(竹敷)及多島海(內海)ニモ亦海軍根據地ヲ有シタリ其他門司及大湊ニハ水雷艇根據地ノ完備セルアリ而シテ尙ホ小ナル海軍根據地ハ各處ニ整備セラレタリ加之日本ハ東京、大阪、横濱、浦賀、神戸、長崎及モカワ(三河ノ)ニ多クノ船渠ヲ有ス

日本ノ艦隊ハ一月ノ末悉ク佐世保ニ集中セラレタリ日本ハ軍艦ノ外尙ホ多數ノ運送船ヲ有シ其數總テ二百六十二隻ニシテ內三千噸以上ノモノ四十二隻アリ而シテ此運送船中最モ良好ナルモノ十九隻ヲ撰擇シ之ヲ假裝巡洋艦ト爲セリ

日露兩軍ノ戰略的形勢ヲ比較スレハ左ノ如シ

兩交戰國ハ海洋ニヨリ隔離セラルヽヲ以テ決勝的効果ヲ得ンカ爲ニハ兵力ヲ對岸ニ移スヲ緊要トス

日之カ爲ニ先ツ海上權ヲ掌握スルヲ要ス露國ハ戰鬪艦(一隻丈)及水雷驅逐艦ノ多數ヲ有ス之ニ對シ日本ハ他型ノ艦船多ク且ツ最モ主要ナル裝甲巡洋艦ニ於テ優レリ今全體ニ於テ日露兩國艦隊ノ勢力ヲ比較スレハ戰列艦ハ四ト三ノ比ニシテ又水雷艇ハ三ト二ノ比例トナル然レトモ日本艦隊ノ根據地ハ極メテ堅固安全ニシテ而カモ其艦隊ハ集中セルニ反シ我艦隊ハ所々ニ分散シタルノ情況ニ在リ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

島ヲ以テ遂ニ海上權ヲ日本ニ掌握セラル、結果ヲ生セリ

我陸軍ノ兵力ハ頗ル優勢ナリ然レトモ極東ニ於テハ著シク薄弱ナリ然ルニ此軍隊ヲ增大スルハ至難ノ業ナリ何トナレハ莫斯科、浦鹽斯德間ハ八千六百八十露里、莫斯科、旅順口間ハ八千八百七十露里アリ而シテ其中間ニ於ケル貝加爾迂回線ハ未タ竣工セス而カモ貝加爾湖ノ結氷ニ由リテ列車ヲ運行シ得サルヲ以テ鐵道ノ交通完全ナラサレハナリ此結果戰爭前ニ於テ滿洲鐵道ハ二乃至三列車（其軸數五十）以上ヲ運行スルヲ得ス四月ノ末ニ於テ其列車數ヲ六回ニ增加セシモ輪轉材料不足ノ爲メ此以上ニ增加スルヲ得ス然ルニ日本ニ於テハ大陸ニ向テ軍隊ヲ輸送スル爲メ多數ノ運送船ヲ有シ加之豫メ今日アルヲ期シテ其準備ハ周ネク整頓セラレ一時ニ四乃至五師團ヲ輸送シ得ヘシ

總テ此等ノ事情ハ日本ニ第一ノ成効ヲ得セシメタルモノニシテ而カモ日本ハ曾ニ戰爭ノ初期ニ於テ成功セシノミナラス戰役ノ全般ニ亘リテモ亦豫想外ノ成功ヲ得タリ

四、露國ノ戰爭ニ對スル準備

露國ニ於テハ戰爭ハ全ク國民ニ理解セラレス且ツ一般社會ハ我極東政策ヲ了解セサリシト雖モ政府ハ戰爭ノ準備ヲ爲ス爲メ外交上ニ於テハ露佛同盟ヲ鞏固ニシ又獨逸及南部露西亞トハ友誼的關係ヲ安全ナラシメ又陸軍省ニ於テハ第一ニ敵ノ兵力ヲ偵知スルニ注意シ陸海軍ノ公使館附武官ハ孜々トシテ必要ナル諜報ノ蒐集ニ勉メタリ日清戰爭并ニ千九百年戰爭ノ實驗ハ大ニ之ニ利用セラレタリ然レトモ世上一般ノ觀察ハ日本ノ軍事上ノ發達ニ就テ深ク注意セス故ドラゴミロフ將軍等ヲ極東問題ハ歐洲ニ於

0543

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

テ解決セラルヘシトノ所見ヲ述ヘタルコトアリシカ實際日本ハ千九百四年迄ハ我參謀大學ニ於ケル陸軍統計表中ニハ記載セラレサリキ要スルニ千八百九十八年ヨリ千九百四年ニ至ル間ニ極東及西伯利ノ我軍隊ハ步兵七十大隊、騎兵四中隊、哥薩克騎兵三十三中隊、野砲百三十六門、騎砲六門ハ工兵一大隊ト四分ノ一、輜重兵一大隊、要塞砲兵九中隊ニ擴張セラレ其總計人員六萬五千人ト砲百四十二門ニ增加セラレタリ是ヲ以テ之ヲ觀レハ我陸軍當局者ハ豫メ戰爭ニ備フル所アリタルモノニシテ決シテ等閑視セシニ非サルコトハ明白ナリト謂フヘシ

極東ニ前揭ノ編制ヲ實施スルト同時ニ西伯利鐵道ノ敷設工事ヲ急キタル爲メ全世界ノ注意ヲ喚起スルコトトハナレリ

又之ト共ニ未來戰場ノ地形ノ研究ハ綿密ニ行ハレタリ卽チ或ハ參謀將校ノ偵察旅行ト爲リ或ハ遼陽以南ニ於ケル滿洲地圖ノ調製ト爲リ玆ニ完全ナル滿洲ノ軍事統計書及北部滿洲幷ニ韓國ノ沿道地誌編輯セラレタリ千九百年乃至千九百一年ノ戰爭ヲ以テ我軍際ハ未來ノ戰場ニ於ケル地理ヲ實地ニ研究スルヲ得タリ且ツ滿洲ニ於ケル商業上ノ基礎ヲ鞏固ニシ又東淸鐵道ノ守備隊ヲ編成セリ此守備隊ハ其任務以外信賴スヘカラサル土民ノ監視ヲモ併セテ行ヒタリ

戰場ノ築城工事ニモ亦注意ヲ加ヘタリ旅順要塞ノ我手中ニ歸シタル後六箇年間ニ其築城工事ノ爲メ四百萬留メ資ヲ投シ海岸砲臺ハ其工事ヲ完全ニ畢リシモ陸正面砲臺ハ僅ニ一半ヲ竣ルニ過キサリキ海岸砲臺ニ於ケル備砲ハ完全(十「ヂユイム」砲五門不足)ナリシモ陸正面砲臺ニ於テハ其武裝未タ完全ナラ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ス其不足スル所ハ即チ六「ヂエイム」砲四門（六十四門据附）、四十二「リーニヤ」砲二門（二十四門据附）野戰輕砲三十門（百四十六門据附）、五十七密米砲五十五門（十四門ト機關砲十五門据附）ナリ又金州ノ陣地ハ三露里三百五十「サージェン」ノ延長ヲ有シ旅順口ニ通スル陸路ヲ扼シ旅順要塞ニ對シテ一ノ前進障地タル關係ヲ有スルモノトス故ニ之カ防禦ニシテ堅固ナルニ於テハ旅順口ノ防備ヲ完全ニスル爲メ大ニ時間ノ餘裕ヲ得ルモノトス金州ニハ强斷面ノ野戰砲臺若干構築セラレタルモ惜ムヘシ大連灣及青泥窪ノ防備充分ナラサリシ爲メ日本軍ハ後日之ヲ利用シテ旅順ニ對スル作戰ノ中間根據地ト爲セリ

五、日本ノ戰爭ニ對スル準備

日本ニ於テハ戰爭ハ周ク全國ニ了知セラレタルヲ以テ露國ニ對シ怨ヲ懷ケル國民ハ政府ニ開戰ヲ迫レリ而シテ政略上ノ準備トシテ千九百二年日英同盟ヲ締結シ米國ノ同情ヲ喚起シ又清國ノ局外中立ヲ以テ自己ノ安全ヲ確保セリ其結果軍費ノ供給ヲ受ケ又海上ノ交通幷ニ沿岸ヲ安全ナラシメ全力ヲ擧テ敵ニ向フヲ得又自國ニ於テ充分ニ製造又ハ蒐集スル能ハサル彈藥及糧食等ノ軍需品ヲ得タリ日本ハ綿密ニ且ツ全般ニ亘リ將來ノ敵ノ情況偵察ニ力ヲ竭シタリ彼ハ優秀ナル軍事視察員ヲ有シ又間諜ハ廣大ニ利用セラレ殊ニ其八種清國人ニ酷似セルヲ以テ多大ノ便利ヲ得タリ

日本ノ軍事上ノ準備中著シキモノ左ノ如シ

一、陸海軍ヲ著シク擴張セリ

二、アルゼンチン國ヨリ二隻ノ巡洋艦ヲ購求セリ（法式ニ拘泥シテ露國ハ之ヲ購買セサリキ）

0545

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

三、戰場ノ綿密ナル研究ヲ遂ケタリ之ニ關シ千八百九十四、五年ノ戰役ハ大ニ利益ヲ與ヘタリ

四、既設砲臺ヲ强固ニシ新砲臺ヲ增設セリ其結果トシテ艦隊ノ重要ナル根據地タル日本內海ハ充分安全ト爲リ又東京市ヲ充分安全ナラシメ朝鮮海峽ノ東航路ヲ閉鎖シ黃海ニ於ケル攻勢的策源地ト爲シテ佐世保ヲ防備シ且ツ日本海ニ於ケル策源地トシテ舞鶴ヲ防備セリ

六、戰地ノ戰略概觀

戰場ハ其範圍廣大ニシテ韓國、遼東、滿洲、烏蘇利地方幷ニ樺太島ヲ包含ス

韓國ハ滿洲ニ對スル便利ナル作戰根據地ニシテ最モ良好ナル上陸地ハ南岸及西岸ニ於テハ釜山、馬山浦、仁川、鎭南浦及鴨綠江口アリ又良好ナル道路ハ西海岸ニ沿フテ存在ス而シテ仁川以北ノ海面ハ十二月ヨリ翌年三月迄氷結ス

遼東ハ其位置ノ關係上重要ナル地方ナリ其海岸ハ水淺ク鴨子窩以北ハ海面結氷ス最良港ハ青泥窪、大連灣及旅順ノ三港ニシテ地方物資ハ何等算スルモノ無シ

滿洲ハ富饒ヲ以テ東西ニ二分セラレ一ハ西方平地即チ豐饒ノ地方ニシテ遼河、松花江ノ水域ナリ他ハ東方山地ニシテ一ノ道路無ク且ツ物資ヲ有セス東清鐵道ハ滿洲ヲ貫通スルヲ以テ日本軍ノ行動上至大ノ關係ヲ有スルモノトス滿洲ニ於ケル數多ノ村落中左ノ土地ハ特別ナル價値ヲ有ス即チ營口ハ滿洲ニ對スル作戰上重要ナル根據地ナリ遼陽ハ諸街道ノ集合點トシテ重要ナル土地ニシテ韓國、遼東及南滿洲ヲ通スル諸道ハ悉ク此地ニ集中ス而シテ哈爾賓ハ北滿洲ニ於ケル道路ノ集合地ニシテ、奉天、吉

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

林及豆々哈爾ハ行政上ノ中心點ナリ

烏蘇利地方ハ物産富饒ナラス道路亦僅少ニシテ最モ重要ナル土地ハ浦鹽斯德及ニコラエフスクノ兩地トス浦鹽斯德ノ價値ハ既ニ露人ノ熱心スル所ナリニコラエフスクハ黑龍江口ヲ擁シ其河口ハ日本軍ノ進入ニ對シ開放セラルルヲ以テゴヲゴヴェシチェンスクヲ威嚇セラレ又敵カ松花江ニ依リ行動スル時ハ實ニ我滿洲軍ノ背後ヲ脅威セラルヽモノトス

樺太ハ不毛ノ寶島ナリ

右ノ如キ形勢ニ依リ戰地中韓國ハ之ヲ獲得シ且ツ之ヲ領有スル爲メ最モ便利ナル地域ニシテ遼東ハ將來ノ戰場ヲシテ十層緊要ノ地ト爲ルヘク尠ニ滿洲ハ韓國及遼東ヲ結合スルニ極メテ重要ノ地ナリトス

戰爭前ニ於ケル兩國ノ戰略的情態ヨリ日本ハ先ツ攻勢的動作ニ出ツヘク豫期セラレシカ是レ十南滿洲地陸上無論ケル戰場ト爲リタリ是レ恐クタ日本人ノ兼ネ思惟セシ所ニシテ露人モ亦能ノ如ク豫期シ

七、兩軍ノ作戰計畫

日本ハ開戰ト共ニ侵略的目的ヲ遂行セリ實ニ日本ヨリ滿洲ニ至ル距離ハ露國ヨリ近キヨリ殆ント五分ノ一ニ少ク又有力ナル艦隊ヲ有シ尙ホ一時ニ大軍ヲ亞細亞大陸ニ輸送シ得ルヲ以テ日本ハ開戰ノ初ヨリ攻勢作戰ヲ採ラタリ

我金百四郎ニ於テ日本ハ千八百九十四年ノ作戰計畫ヲ再演セリ即チ第一ニ海上權ヲ掌握スル爲メ先ツ

0547

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

我艦隊ヲ擊破センコトヲ勉メ第二ニ韓國ヲ掌握セリ是ヲ以テ策線ハ安全ト爲リ陸海軍ノ爲メ中間根據地ヲ得タリ詳言スレハ絶對的ニ朝鮮海峽ヲ閉鎖シ得ヘキ釜山及馬山浦ヲ占領セルヲ以テ策線ハ全ク安全ト爲リ元山、仁川、鎭南浦及鴨綠江口ヲ占領セルヲ以テ中間根據地ヲ設立シ策線ヲ短縮スルヲ得タリ第三ニ鴨綠江ヲ渡過シ鳳凰城ヲ占領セル結果韓國ヲ安固ニシ且ツ旅順ニ對スル作戰ヲ安全ニセリ第四ニ貔子窩ニ上陸セリ是レ關東州ニ對スル作戰ノ爲ニシテ一方ニ於テハ營口、他方ニ於テハ鐵道ヲ掌握スル目的ヲ以テ海城ニ對スル作戰ノ爲メナリ第五ニ海城ニ對スル作戰ノ爲メ大孤山ニ一部ヲ上陸セリ而シテ最後ニ露軍ノ集中セル遼陽ノ作戰ト爲レリ之カ爲メ日本ハ四軍ヲ編成セリ其第一軍ハ韓國ヲ領有スル目的ヲ有シ第三軍ハ旅順占領ノ爲ニシテ第二、第四軍ハ鐵道占領ヲ目的トシ次ニ遼陽及奉天ノ總攻擊ト爲レリ實ニ日本ノ作戰ハ充分滿足ナル情況ノ下ニ在ルニ拘ラス注意ニ注意ヲ加ヘラレタルモノトス

露軍ニ在テハ軍隊集中ノ爲メ先ツ時間ノ猶豫ヲ得ルヲ以テ作戰計畫ノ基礎トシ左ノ如キ手段ヲ採ルニ至レリ

一、日本軍ノ海上連絡ヲ脅威スルコト

二、旅順及浦鹽斯德ノ防備ヲ益〻堅固ニスルコト

三、我兵力ノ敵ヨリ優勢ナルニ至ル迄爲シ得ル限リ日本軍ノ前進ヲ遲緩ナラシムルコト

之カ爲メ軍隊ヲ左ノ三群ニ分テリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

イ、關東州部隊

ロ、烏蘇利方面部隊

我軍左翼ニ於ケル作戰根據點ノ確保

ハ、遼陽方面ニ於ケル主力

滿洲ノ要道ヲ制スルモノニシテ鴨綠江口及大石橋ニ前進支隊ヲ派遣セリ

其他我軍右翼ニ於ケル作戰ノ顧慮ヨリ蒙古及支那ニ對スル監視ヲ嚴ニセリ

八、兩軍ノ動員

兩國ノ動員ハ全軍同時ニ施行セラレス漸次ニ實施スルヲ要セリ是レ輸送材料ニ制限アリシ爲ニシテ日本ハ運送船ヲ以テシ露國ハ微々タル輸送力ヲ有スル西伯利鐵道ヲ以テシタリ此關係上日本ノ輸送ハ一層便利ナル情態ニ在リタリ何トナレハ日本ヨリ滿洲ニ至ル距離ハ我ヨリ近キコト五分一ナルト又一回ニ四乃至五師團ヲ輸送シ得タルカ爲メナリ若シ諸般ノ輸送材料ヲ好時機ニ乘船地ニ集合スルヲ得ハ其輸送力ハ益々廣大ト爲ルヘシ日本軍隊ヲ徐々ニ動員スルノ必要ナルハ韓國ニ上陸點ノ少ナキト港灣ノ結氷セルト道路少ナク大部隊ノ行動困難ナルトニ因レリ又徐々ニ動員ヲ實施スルモ危險ナキ所以ハ彼ハ海上權ヲ掌握セルヲ以テ露軍ハ日本ニ侵入シ難キコト確保セラルレハナリ

日本ノ動員ハ左ノ期日ニ實施セラレタリ即第一軍（近衛及第二、第十二師團）ハ二月六日即チ國交斷絶ノ一日前、第三軍（第一、第三、第四師團）ハ三月七日、第四軍（第五及第十一師團）ハ三月十八日

0549

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ニシテ此等ノ師團ト共ニ後備旅團モ動員セラレタリ日本ノ動員ハ何等ノ困難及混雜無クシテ施行セラレタリ之ニ利益ヲ與ヘタルハ期日ヲ充分ニ與ヘタルコト（軍隊ノ爲ニ八日、輜重ノ爲ニ十日間）、經費ノ豫算正確ナリシコト及一般ニ愛國心充分ナリシ爲メトス而シテ第一軍ハ二月十五日ニハ將ニ乘船シ得ルノ姿勢ニ在リタリ

露軍ノ動員ハ著シク西伯利鐵道工事ノ影響ヲ蒙リタリ是レ莫大ナル軍隊補充ノ泉源ハ西伯利及歐露ニ在リシニ由レリ

二月七日太守管轄地ノ軍隊ニ動員下令アリ西伯利軍管區ノ動員ハ二月十一日ニ下令セラレ二月十五日ニヴィトカ、ベルミ二郡ノ豫備兵ヲ召集セリ太守管轄地ニ於テハ無事ニ動員ヲ完了セルモ其軍隊ハ完全ニ充足セラレサリシヲ以テ本國ヨリ新兵及豫備兵ヲ以テ之ヲ補充スルヲ要セリ

太守管轄地軍隊ノ動員ト同時ニ行ハレシモノ左ノ如シ

一、第九狙撃兵旅團ノ編成

二、第三大隊ノ編成

三、師團ニ擴張（主トシテ輜重ニ關係ス）

四、砲兵部隊ノ編成

五、諸機關ノ輸送

六、第二十一及第二十五歩兵師團ノ兩砲兵旅團ノ兵器交換

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

七、技術隊(工兵、架橋兵、氣球隊)ノ編成

八、經理部及砲兵用荷物ノ輸送

九、鐵道材料ノ輸送

其他之ト同時ニ施行セラレタルハ各軍團ヘ新タニ軍隊ノ配屬、第三西伯利軍團ノ編成及滿洲軍總司令部ノ編成トス

西伯利軍管區(第四西伯利軍團)ノ動員ハ其配置ノ區域廣大ナル爲メ應召員ハ長行程ヲ通過スルヲ要セシヲ以テ非常ノ困難ヲ生セリ

一般ニ歩兵隊ハ十九日乃至四十一日間ニ、西伯利哥薩克騎兵諸聯隊ハ八日乃至二十四日間ニ、西伯利礮兵大隊ハ十八日乃至五十一日間ニ各〻動員ヲ完結セリ此等ノ期日ハ概ネ豫定ヨリ遲延セサリシモ唯、一哥薩克中隊ニ於テ三日間ノ遲延ヲ生シタルノミ次ニ高加索騎兵旅團ハ四月八日、オレンブルグ哥薩克騎兵師團及烏拉爾哥薩克騎兵旅團ハ四月二十日動員セラレタルモ悉タ騎兵部隊ニシテ滿洲軍ハ主トシテ歩兵ノ增加ヲ渴望セリ特ニ高加索旅團ノ動員ノ如キハ全ク無益ニシテ其戰場ニ於ケル動作ハ僅少ノ利益ヲ與ヘタルノミナリ五月四日ニ至リ僅ニ第十及第十七軍團ノ動員下令アリタルモ尙ホ未タ甚シク敵ヲ震駭スルノ念去リ難キ爲メ其後野戰軍ヲ動員セスシテ豫備軍隊ヲ動員セリ

二月七日海軍中將アレクセエフハ極東陸海軍總指揮官ニ又リネウィチ將軍ハ一時滿洲軍總司令官ニ任セラレシカ二月二十日侍從將官クロパトキン滿洲軍總司令官ニ任命セラレタリ

0551

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

九、日本軍ノ戰略展開

二月七日東鄕中將ハ佐世保ヲ拔錨シ二月八日夜ニ於ケル水雷攻擊及九日ニ於ケル仁川海戰ヲ以テ我海軍ヲ擊破シテ多大ノ損害ヲ與ヘ其後我艦隊ヲ旅順及浦鹽斯德兩港ニ封鎖スヘク努力シ此目的ヲ以テ上村艦隊（戰鬪艦一、巡洋艦四）ヲ浦鹽斯德ニ向ケ旅順港ニ對シテハ東鄕中將躬ラ其指揮ヲ取リ閉塞船及水雷ヲ使用セリ此等ノ方法ニヨリ我艦隊ハ益〻多大ノ損害ヲ蒙ルニ至レリ就中最モ悲シムヘキハアカロフト共ニ沈沒シタル「ペトロパウロフスク」艦ノ損失ナリ之ニ反シ日本ニ於テハ益〻海上ノ安全ヲ確保シ東鄕中將ハ漸次其中間根據地ヲ轉移セリ卽チ最初ノ根據地ハ仁川ノ南方三十海里ニ在ル牙山ニシテ後チ仁川ノ北方四十五海里ニ在ル海州ニ、其後更ニ之ヲエリヲット島ニ移セリ

日本ハ先ツ海上權ヲ掌握スル爲メ海軍ノ行動ヲ開始スルト同時ニ交通ヲ安全ニスル目的ヲ以テ陸上運動ヲ開始セリ二月六日平時編制ニ於ケル第十二師團ノ一部隊ハ釜山及馬山浦ニ上陸シテ之ヲ占領シ（其後此部隊ハ後備隊ト交代セリ）二月七日第十二師團ノ四大隊（平時編制）ハ瓜生艦隊ノ掩護ヲ受ケ佐世保ヲ出發シ仁川ニ向ヒ二月九日仁川ニ於ケル「ワリヤク」トノ海戰後此四大隊ハ上陸シテ根據ヲ確定シ二月十一日韓國ノ首府京城ヲ占領シ以テ志氣上大ニ有利ナル影響ヲ得タリ同日第十二師團ノ若干部隊（平時編制）ハ元山ヲ占領シテ烏蘇利方面ニ對シ以テ策線ノ右側ヲ安全ナラシメタリ仁川ヨリ北方ニ於ケル港灣ハ當時尙ホ氷結シテ上陸スルヲ得ス

二月十四日第十二師團ハ全部門司ヨリ仁川ニ到著セリ其上陸頗ル困難ナル情況ナリシモ五日間ニ之ヲ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ヶ子セリ斯シテ上陸ヲ畢ルヤ其前衛ハ直ニ平壤ニ向テ運動ヲ開始シ主力ハ京城ヲ占領セリ

二月二十七日日本騎兵ハ平壤ヲ占領シテミシチェンコ將軍ノ騎兵斥候ト衝突セリ第十二師團ノ平壤ニ到ル行進ハ甚シキ泥濘期ニ際シタルヲ以テ實ニ至難ノ情態ニシテ京城、平壤間ノ距離二百四十露里ヲ二十四日間ニテ通過セリ然ルニ時恰モ海面ハ既ニ解氷ヲ始メ仁川以北ノ上陸モ亦之ヲ施行シ得ルコトヽ爲リ加之我艦隊ハ旅順港ニ封鎖セラレ日本軍ハ益〻動作ノ自由ヲ得タルヲ以テ三月十日近衛師團ハ鎮南浦ニ上陸ヲ開始セリ是時ニ當リ第十二師團ノ前衛ハ安州ニ近衛及第二師團ノ偶成部隊ハ龍岡ニ駐屯シタルヲ以テ師團ノ上陸ハ特ニ安全ナリシモ上陸動作ハ極メテ困難ナリキ三月十八日第十二師團ノ首為平壤ニ到著シ同日第一軍司令部ハ鎮南浦ニ上陸シ次テ第二師團モ亦上陸ヲ開始セリ此ノ如タ日本軍ハ先頭部隊ヲ以テ警戒線ヲ張リタルカ故ニ之ヲ突破シテ内部ニ進入スルコトハ頗ル困難ト爲レリ

三月二十五日定州附近ニ於テ衝突アリ此戰鬪ニ參加シタル我兵力ハ勇敢ナル哥薩克騎兵六中隊ニシテ是ヨリ先キ砲兵ハ道路困難ナリシ爲メ中途後退セシメラレタリ又當時日本ノ兵力ハ歩兵五大隊、騎兵一中隊、砲十八門及工兵一中隊ナリシカ其習慣トシテ非常ニ慎重ノ態度ヲ取リ唯〻火砲ノミハ比較的多數ヲ配列シタリ定州ノ戰鬪後ミシチェンコ將軍ハ鴨綠江ノ後方ニ退却セリ

同月同日日本ノ騎兵斥候義州ニ現出シ同日第一軍ノ先頭安州ニ到著セリ同軍ハ百四十露里ノ長徑ニ亘リ一進隊ト爲リテ行進シ各師團ハ二梯隊ト爲リ歩兵三大隊、騎兵五中隊、砲十二門及工兵一中隊ヨリ成ル前梯ハ最先頭ニ行進シ又其右側ヲ安全ナラシムル爲メ側衛（歩兵三大隊、騎兵一中隊、砲十二門）

0553

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ヲ設ケ順川ヲ經テ雲山ニ向ヒ前進セシメタリ支隊ノ鴨綠江後方ニ退却シタルハ日本軍ニ取リ非常ノ利益ヲ與ヘタリ日本軍ハ該河口ニ其中間根據地ヲ轉移シ四月十二日砲艦二隻裝砲汽艇二隻及水雷艇二隻ヨリ成ル小艦隊ハ此河口ヲ占領セリ時ニ第二軍ハ乘船シテ鎭南浦ニ停留シ以テ第一軍作戰ノ一段落ヲ告クルヲ待テリ

前陳セル日本軍ノ展開ハ注意周到整々確實ナル作戰ト稱スルヲ得ヘシ

十、露軍ノ戰略展開

前記ノ情況ヨリ戰略展開ヲ爲スヘク强制セラレタル我軍ハ頗ル不利ノ位置ニ立チタリ當時太守管轄地ニ於ケル軍隊ハ各處ニ分散セラレ在リシヲ以テ概ネ其展開ヲ妨碍セラレタリ卽チ豫定ノ集中地點タル遼陽ニハ僅ニ步兵四大隊半、哥薩克騎兵四中隊及砲六門ヲ有シ關東州ニハ步兵二十三大隊ト四分ノ三幷ニ哥薩克騎兵三中隊、砲四十門在リシノミニシテ爾餘ノ部隊ハ沿海州、北滿洲、後貝加爾及黑龍江州ニ駐屯シ其若干部隊ハ停車場ニ到ル爲メ概ネ五百乃至六百露里ノ行程ヲ行軍セサルヘカラサルノ地ニ在リタリ

總テ此ノ如キ情態ナリシヲ以テ我軍ハ最初ニ待機ノ處置ヲ取ルヲ要セリ此目的ニ從ヒ全軍隊ヲ移動シ西伯利ヨリ增加兵ノ到著後二月十七日ニ於テ我軍隊ハ始メテ左ノ如ク配置セラルヽニ至レリ

滿洲軍ノ主力ハ之ヲ遼陽ニ置キ其兵力ハ步兵二十八大隊、哥薩克騎兵二十六中隊、砲百八門及工兵八中隊トス鴨綠江畔ノ東部支隊ハ其兵力步兵十八大隊、哥薩克騎兵十八中隊、砲五十六門、機關砲八門

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

及工兵一中隊トス其他鴨綠江口、大孤山間ノ沿岸監視ノ爲メ歩兵三大隊、砲八門、哥薩克騎兵五中隊ヲ配置セリ南方ニ於ケル前衛ハ大孤山及營口ニ在リ其兵力ハ歩兵二十四大隊、騎兵六中隊、砲六十四門、定數外ノ砲四門及工兵一大隊トス最左翼守備トシテマドリトフ支隊（乘馬獵兵二隊及哥薩克騎兵二中隊）在リ清國及蒙古ヲ監視スル爲メ大灣ニコスソゴフスキー支隊（歩兵二大隊及哥薩克騎兵二中隊）在リ又後方守備トシテ國境監視兵ノ歩兵五十五中隊、哥薩克騎兵五十五中隊、砲三十門并ニ野戰軍ノ歩兵十二大隊、哥薩克騎兵三中隊及砲十六門屯在セリ此ノ如ク多大ノ部隊ヲ後方ニ於ケル鐵道監視トシテ配置セル所以ハ信賴シ難キ土民ノ暴行ヲ顧慮セルカ爲メナリ

旅順防禦ニ任セル關東支隊ハ歩兵二十九大隊、哥薩克騎兵一中隊、砲六十二門、工兵二中隊及要塞砲兵三大隊ヨリ編成セラレ又沿海州防禦トシテ配布セラレタル兵力中南部烏蘇利支隊ハ歩兵二十三大隊、哥薩克騎兵六中隊、砲五十六門、工兵五中隊及要塞砲兵三大隊ヨリ成リ、ニコラエフスク守備隊ハ歩兵二大隊、工兵一中隊及要塞砲兵一中隊ヨリ成リ又樺太ニハ徒歩兵四隊ト砲六門在リタリ

二月十七日極東ニ於ケル我軍隊ハ總計歩兵百四十一大隊半ト四隊、哥薩克騎兵六十九中隊、砲三百八十門、機關砲八門、工兵二十一中隊及要塞砲兵六大隊ト四分ノ一ナリ軍隊ノ集中ト同時ニ遼陽鞍山站方面ニ於ケル鐵道工事或ハ殊ニ鞍山站陣地ノ如キ枢要ノ位置ヲ占メタリ而シテ又同時ニ鐵道線路ヲ蒐集シ運輸部ヲ編成セリ

第二、結論

0555

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

前述ノ諸件ヲ考察スレハ我軍ノ情況ハ頗ル不利ナリシニ係ハラス我陸軍當事者ハ其所管事項ノ高般ニ鋭少ヲ欠ク得ル限リノ方法ヲ講シタルモノナルコトヲ認メ得ヘシ

日本ニ就テハ特ニ一言最ニ注意スル必要アリ即チ日本ハ周ネク百般ノ準備ヲ整頓シ尚ホ極メテ熱心ニシテ敢テ第一ノ成効ニ酔フコト無ク又危險ヲ習スコト無ク快然トシテ進テノ計畫ヲ實行シタルコト是レチリ而シテ日本人ハ概シテ獨逸ニ師事シタル優等ナル學生ナルコトヲ證明セリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp